

さいがた医療センターに関する請願、本会議でも不採択 議員、市長など特別職のボーナスアップは日本共産党議員以外賛成



12月定例議会は15日、議案などの採決を行って閉幕しました。
注目されたさいがた医療センターの医師確保を求める請願、先日の厚生常任委員会では3対4の僅差で不採択となっていました。この日の本会議でも13対17で不採択となっていました。
同請願は、全日本国立医療労働組合厚潟支部が提出したものです。さいがた医療センターが上越地域の精神科医療の要として、大きな役割を果たしてきているものの、近年、慢性的な医師不足の状態が続く、日常的な診療にすら支障を来しかねない状況になっていくことから市議会にたいして国や県に意見書をあげてほしいと支援を求めたものです。
賛成討論を行った日本共産党議員団の平良木哲也議員（左上の写真）は、「現在、常勤の医師は7名、うち2名は放射線科の医長と臨床検査科の医師であり、実質的な診療行為に携わっている医師は5名だけとなっている。さらに、この5名の中には、今年度末に退職を考えている医師もおられるとのこと。そのため、入院患者数も通常の半数ほどにとどまっている」「請願者の思いを汲むと、上越地域の精神神経医療の維持発展を期す大

きな視野に立つて、議会としての何らかの意思表示を示すこともたいへん重要。（中略）県内のある大きな病院の元看護師長さんからもご指摘を受けたが、さいがたの問題は県内の精神神経医療全体にも大きな影響を及ぼすことだけに、上越だけの問題ではないとのこと。ぜひ賛同を」と訴えました。
この日は市長が提出した今年度一般会計補正予算や条例の一部「改正」議案などの採決が行われました。
その中には、議員や市長・教育長などの特別職のボーナスを0・1ヶ月分増額することに関連する議案が6つありました。これらの議案に関しては、日本共産党議員団の橋本正幸議員（左下の写真）が、「いずれも、不況や賃金低下で苦しんでいる市民の感情からすると、理解を得られるものではない」として反対討論を行いました。
今議会には、合計49の議案など（市長提出議案38、請願1、同意案1、諮問7、議員発議案2）が上程され、日本共産党議員団はそのうち42の議案などに賛成しました。

【シシウド】セリ科の多年草です。花の色は白。漢字で「猪独活」と書きます。8月から11月に咲きますが、いまでも咲いているものがあります。写真は21日、直江津海岸の近くにて撮りました。

せることができたこと、③無党派・無関心層への訴えがこれまで以上にできたこと、この点では、若いママさんたちなどが大活躍したことなどを勝利の要因としてあげました。
新潟県知事選については全国から注目され、森ゆうこ参院議員や各地の選挙事務所のスタッフなどが講演活動を要請されています。新潟知事選の教訓を次の衆院選に活かし、安倍内閣の暴走政治にストップをかけたいものです。



新潟県知事選の教訓など 長野県岡谷市で語る

17日、岡谷市を数十年ぶりに訪れました。同市在住で、「日本共産党を応援するしらかばの会」の毛利正道弁護士から、新潟県知事選挙勝利の教訓を語ってほしいと頼まれたのです。

講演では、今回の知事選では、①県民が一番心配している問題で対決構図を鮮明にできたこと、②野党＋市民の共闘を進化、発展さ



はしづめ法一の
活動レポート

No.1788 2016.12.25
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ
「ホーセの見たある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第四三六回 母が泣いた

何人かのキョウダイがいて、子どもの頃は一緒に暮らした。学校を終え、それぞれが別の道を歩んでも、キョウダイの絆は強い。それだけに高齢になって、一人、また一人とキョウダイが亡くなっていくのは辛いことだと思えます。まして、自分が最後の一人となったときの気持ちはいかばかりでしょう。

大島区の従弟（いとこ）から伯母が亡くなったという知らせが入ったのは日曜日のお昼休みの時間帯、一二時四〇分頃でした。先日、従弟がわが家に来たときに、「目がよく動かなくなった」などと言っていたので、「ひよっとすれば伯母に重大事態が……」と思ったのですが、その通りでした。

伯母の訃報を聞いて一番悲しむのは母です。ここ数年間、伯母と母は七人キョウダイのなかで残された姉と妹として互いに励まし合って生きてきましたからね。伯母が老人福祉施設に入るまでは、「ばちやかね、達者かね」とたびたび電話をしていて、母は伯母の家の電話番号をすっかり暗記しています。

日曜日は母がデイサービスに行っている日でした。わが家から一キロほどのところですので、教えに行こうかとも思いましたが、伯母が亡くなったことを知れば落ち着いていられないはず、夕方、帰ってからにしようと思えました。

夕方、私はやるべきことができたので、長女に「おばあちゃんに板山のばあちゃん、亡くなったこと伝えておいてくれ」と一度は言ったものの、気になって前庭にて母の到着を待ちました。

デイサービスセンターの送迎車がわが家に着いたのは午後四時半過ぎでした。車いすからおろしてもらい、長女の手を借りながら自分の部屋に入った母がベッドに腰をおろした段階で、母に声をかけました。

「ばちや、板山のばちや、亡くなったよ」私の言葉を聞いた母は、

「あら、そいが。はい、一〇〇だもんな」と言っただけで、落ち着いていないように見えませんでした。しかし、それから数秒後、「自動車で来たがかえ、と言っていたがに……」

と言った途端、顔を両手でおおいい、「エーン、エン」と泣き始めたのです。これにはびつくりしました。

キョウダイのなかで一番行き来していた千葉の叔父が亡くなったときは、体をブルツと震わせたものの、泣くことがなく、七年前に父が死んで病院にかけつけた時も涙ひとつ見せなかった母が今回、まさか声を出して泣くとは思いませんでした。

こういう母の様子を見たものですから、翌日、母にたずねました。「どうしてるね。おまん、板山のばちやに会いたけりや、つんてつてやるよ」

「行きてでもだめだ。こんだ、ころべと答えました。じつは母は先日、背中を痛めてしまい、まともに歩けない状態だったので。」

そして母はこうも言ったのです。「おら、いいとき、会って来た。なんにもあいそねでもと、ばちや、言っていたな」

前日、母が「自動車で来たがかえ」という言葉を使っていたのは、今年の七月一六日、伯母が入っている福祉施設を訪ねたときに、伯母が言った言葉だったのです。

伯母が亡くなったいま、母の胸の内はよくわかりません。ただ、お通夜の前日のこと、母はパンをむしゃむしゃ食べながら、ときおり、目をつむっては、口を動かしながら、「七人キョウダイで、おれだけになっちゃった。しょうがねえな」と。



うがどこが責任もって行うのか」などと発言しました。後者については市と県が共に進め、情報を共有するという答えでした。

鳥インフルエンザに関して市議会全員協議会

15日の市議会本会議が終わってから、全員協議会が開催されました。協議会では、高病原性鳥インフルエンザ発生に係る対応等について、市の対策本部から説明があった後、

質疑が行われました。そこでは、市や県の対策を評価しつつも、「防疫作業に従事した職員の健康確保にいっそう努力してほしい」「井戸水の検査について不安の声が出ている。検査場所がどこか、おおまかでもいいから明らかにできないか」などの声が出ていました。

私からは、「ホームページに掲載された対策本部会議情報に関しては次第書だけ載せているでは意味がない。公表できる中身を掲載すべきだ」「鳥類飼育者リストの整備をすすめる」と

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	12月14日(水)	12月21日(水)
上越南消防署	0.050	0.043
上越北消防署	0.057	0.057
新井消防署	0.057	0.047
頸北消防署	0.057	0.043
頸南消防署	0.060	0.057
東頸消防署	0.043	0.040
高士分遣所	0.060	0.050
名立分遣所	0.050	0.053

築北村が「保育料無料化実施中」の看板

12日、長野県の篠ノ井線で見つけた看板です。走行中の快速電車の中から撮りました。ピンボケ写真になってしまいましたが、看板は築北村がたてたもので、「子育ての村 保育料無料化実施中」と書いてありました。たぶん坂北駅のそばだと思います。



同村では、今年の4月から3歳以上の子どもの保育料を無料にしたといえます。同村では、村への移住促進の柱の一つに子育て支援をどんと据えています。たいしたものですね。